

2013 年度 入学 試験 問題

世界史 B

(試験時間 10:30~11:30 60分)

1. この問題は、入学願書提出時に選択した科目の問題です。科目名を確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙は、記述解答用紙とマーク解答用紙の2種類がありますので注意してください。
3. 解答は、必ず解答欄に記入してください。なお、解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。特に、マーク解答用紙には鉛筆のあとや消しくずを残さないでください。また、折りまげたり、汚したりしないでください。記述解答用紙の下敷きにマーク解答用紙を使用することは絶対にさけてください。
5. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。
6. マーク解答用紙の受験番号および受験番号のマーク記入は、コンピュータ処理上非常に重要なので、誤記のないよう特に注意してください。

I つぎの文章 (A～D) は、ヴェトナムの歴史について述べたものである。よく読んで、下記の設問に答えなさい。(34点)

A 東南アジアでは、西からのインド文明と東からの中国文明の影響をうけながら、各地で独自の文化が発展した。なかでもヴェトナムは、インドシナ半島の沿岸部に位置するという地理的条件から、インド・中国両文明が接するところであった。

ヴェトナムの北部から中部は、前2世紀末に前漢の武帝が南越を滅ぼし、交趾・九真・日南の3郡をおいて以来、徴姉妹の反乱などが起きたものの、1000年以上にわたって中国に服属してきた。10世紀になるとヴェトナム人は中国から念願の独立をはたし、11世紀初めに李公蘊が大越国を建国した。つづく陳朝は、13世紀に元の来寇を撃退したが、これによりヴェトナム人の民族意識は高揚し、歴史書である『大越史記』が編纂され、(1) と呼ばれる民族文字が体系化された。その後、大越は15世紀初めに明の永楽帝によって一時支配をうけたが、陳朝の武将であった(2) は、明から大越を解放し、1428年に皇帝に即位した。この王朝は、儒教を導入し、律令制を整備するなどして内政をかため、その勢力を南に伸ばしていくことになる。

B 一方、ヴェトナムの中部から南部にかけては、2世紀末に(3) すなわち後のチャンパーが日南郡から独立し、インドの様々な文化を受容しながら、中継貿易の拠点として発展した。(3) の舞踊の一部は奈良時代の日本にも伝わっている。チャンパーは、領土拡張政策をとった北のヴェトナム人の王朝や最盛期にあった西のクメール人の王朝ともしばしば戦った。13世紀にはマルコ=ポーロ、そして、15世紀には南海大遠征の途上にあつた鄭和がこの国を訪れているが、このことはチャンパーが交易の要衝であつたことを物語っている。しかし、繁栄を誇つたチャンパーも15世紀後半には(2) を開祖とする王朝の支配下におかれ、その後はイスラーム化しながら東南アジアでの交易活動を続けたものの、17世紀には滅亡したとされている。チャンパーを滅ぼした王朝は、南北に分裂したあと、18世紀後半に西山党の反乱をきっかけに滅びた。

C 1802年には、フランス人宣教師（ 4 ）の援助とタイ軍の支援をうけた（ 5 ）が、西山朝を倒し、新たな王朝を建てた。1804年（ 5 ）は清から越南国王に封ぜられた。この王朝は清に朝貢し、清にならった中央集権化をすすめた。しかし、（ 5 ）がフランスの軍事支援をうけ、これに通商特権をあたえたことは、フランスによる植民地化の遠因ともなった。インド経営をイギリスと争って敗れていたフランスは、インドシナの植民地化にむかっただのである。ナポレオン3世は、スペイン人宣教師殺害を口実にスペインとともに出兵し、1862年にはヴェトナムに第1次サイゴン条約を締結させ、キリスト教布教の自由およびコーチシナ東部3省とコンロン島の割譲を認めさせた。その後コーチシナ西部を支配下においたフランスは、さらに北に攻め上り、1883年のユエ条約によってヴェトナムを保護国としたのである。

D しかし、清がヴェトナムに対する宗主権を主張したため、1884年に清仏戦争がおこった。清軍と（ 6 ）のひきいる黒旗軍は善戦したが、福建海軍がフランス海軍に壊滅的な打撃を受けると、翌年の天津条約で清はフランスのヴェトナムに対する保護権を認めた。フランスは、1887年には直轄地コーチシナ・保護領トンキン・保護国アンナンなどからなるフランス領インドシナ連邦を形成した。もっとも、1904年には、ファン=ボイ=チャウらの知識人が、ヴェトナムの独立回復と立憲君主制をめざして（ 7 ）を結成している。ファン=ボイ=チャウは、翌年、日本にわたり、日露戦争に勝利した日本にヴェトナムの青少年を留学させる東遊運動を展開するが、1907年にフランスと日本がアジアにおける双方の利益と安全を保障する（ 8 ）を締結すると、この運動も挫折することになる。ヴェトナムの独立と平和の実現にはなお幾多の試練が待ちかまえていた。

設問1 空欄（1～8）に入るもっとも適切な語句を答えなさい。

設問2 下線部(a)について。武帝は、匈奴をはさみうちにすることを計画し、西域の大月氏に使者をおくった。その使者の名前を答えなさい。

設問3 下線部(b)について。元の南方進出について述べたつぎの記述(あ～う)は正しいか。それぞれについて、正しければ①を、誤っていれば②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

- あ. 元は、ミャンマー(ビルマ)では、パガン朝を滅ぼした。
- い. 元は、ジャワでは、マジャパヒト王国を滅ぼした。
- う. 元は、雲南では、南詔を滅ぼした。

設問4 下線部(c)について。永楽帝は、モンゴルに親征し西北モンゴルの部族と戦った。この部族は、後にエセン=ハンのもとで一時モンゴル全土を支配することになる。この部族の名称を答えなさい。

設問5 下線部(d)について。東南アジアの宗教について述べたつぎの記述(あ～う)は正しいか。それぞれについて、正しければ①を、誤っていれば②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

- あ. ドヴァーラヴァティー王国では、上座部仏教がさかんであった。
- い. シュリーヴィジャヤ王国では、ヒンドゥー教がさかんであった。
- う. マタラム王国では、大乘仏教がさかんであった。

設問6 下線部(e)について。このクメール人の王朝は、アンコール=ワットの建設で知られる王のもとで最盛期をむかえた。その王の名前を答えなさい。

設問7 下線部(f)について。マルコ=ポーロについて述べたつぎの記述(あ～う)は正しいか。それぞれについて、正しければ①を、誤っていれば②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

- あ. マルコ=ポーロは、ジェノヴァ出身の商人であった。
- い. マルコ=ポーロは、フビライ=ハンに仕えた。
- う. マルコ=ポーロは、『三大陸周遊記』を著わした。

設問 8 下線部(g)について。このときのタイ国王は、1782年にラタナコーシン朝を建てた国王である。その名前を答えなさい。

設問 9 下線部(h)について。1757年の戦いでイギリス東インド会社軍をひきい、フランスとベンガル諸侯の連合軍をやぶった人物は誰か。その名前を答えなさい。

設問10 下線部(i)について。1893年にフランスの保護国となり、1899年にフランス領インドシナ連邦に編入された国はどこか。その名称を答えなさい。

II つぎの文章（A～C）は、宗教の歴史について述べたものである。よく読んで、下記の設問に答えなさい。（32点）

A 世界に存在する宗教には、一神教と多神教、経典の有無やその成立過程などといった点できわめて多様なものがあるが、多くの宗教は、文化・政治・経済など、人間のあらゆる活動領域に関わっている点では変わらない。そうしたなかでも、世界宗教と呼ばれるイスラーム教・キリスト教・仏教などは、世界的規模でひろまり、歴史のなかで大きな役割を果たしてきた。

キリスト教がヨーロッパの外部にひろまるのに特に大きな役割を果たしたのは、宣教師たちである。大航海時代には、スペインやポルトガルから多くの宣教師が世界各地に派遣された。異文化に接した宣教師たちにとって、布教活動のなかで現地の文化をどこまで尊重できるかは大きな課題となった。

7世紀に誕生したイスラーム教は、まず中東や北アフリカにひろまったが、それがさらにアジアなどにもひろまった背景には、10～11世紀ごろからさかんになった（ 1 ）の存在があった。禁欲的な修行によって神との一体感を求めようとする（ 1 ）にもとづく教団が多数結成され、教団員はムスリム商人の後を追うようにして、アフリカや中国・インド・東南アジアに進出し、各地の習俗をとりいれながらイスラームの信仰をひろめていった。

B ひとつの宗教が広大な地域にひろまるにつれて、あるいはそれが長い時代を経るにつれて、自らの内部に変化が生じてくることは避けられない。同じ宗教であっても、地域ごとの特徴を帯びてくるものであるし、各地域の民間信仰との融合により新たな宗教が成立するのも、自然な成り行きである。たとえば、イランでは3世紀にマニ教が生まれた。インドでは16世紀に、ナーナクがイスラーム教の影響のもとにヒンドゥー教を改革し、（ 2 ）が成立した。中国でも、さまざまな外来系宗教の結社が生まれた。朝鮮では19世紀半ばに、崔濟愚（チェジェウ）が民間信仰に儒・仏・道の3教などを融合させ、（ 3 ）を創始した。

宗教と学問との関係についても、同じことがあてはまる。キリスト教の歴史のなかで、地動説や進化論が提唱されたことは重大な挑戦となり、それらの脅威をい

に克服するかは大きな課題であった。時代を超えて存続する宗教には、自らも変化を遂げる用意が必要なのである。

他方、宗教の変化が墮落や腐敗と受け止められ、内部から改革の動きが出てくることもある。こうした動きはしばしば、その宗教の原点に戻ることを主張する原理主義の色彩を帯びる。キリスト教の宗教改革はその大規模な例である。イスラーム教においても、たとえば、18世紀に起こされた（ 4 ）派の運動は、イラン人やトルコ人のもたらした（ 1 ）と聖者崇拜によってイスラーム教が墮落したとし、ムハンマドの最初の教えに戻れと説いた。現代でも原理主義の運動は、キリスト教にもイスラーム教にも存在している。

C 宗教と政治の関係は複雑である。宗教の相違が紛争につながることは十字軍の例などから容易に想起できるが、ひとつの宗教の内部における宗派対立も政治的抗争の原因となってきた。16世紀以降のヨーロッパでは、宗教改革がやがて宗教戦争に発展したようにカトリックとプロテスタントの対立は激烈であった。当時は現代とは異なり、信教の自由が認められるのはまれであった。イスラーム教の内部でもすでに7世紀から、ムハンマドの言行を生活の規範とし、共同体の統一を重視する宗派と、第4代カリフであった（ 5 ）の子孫だけが共同体を指導する資格があるとする宗派との間で、対立が生じていた。イスラームの教えは、信仰生活だけでなく政治・社会・文化のすべてに及んでいるだけに、この対立は、現代でも依然としてイスラーム国家間の政治的対抗関係に影響を与えている。現代のキリスト教では、主要な宗派の間にかつてのような激しい対立は見られないとはいえ、教皇庁がヴァチカン市国としてイタリアから独立していることに象徴されるように、宗教は政治的存在であることを完全に止められるわけではない。

宗教には、政治によって利用されてきたという面があることも否定できない。たとえば、1853年にロシアが（ 6 ）徒の保護を理由にしてオスマン帝国に侵攻したときのように、ある国における宗教的迫害の存在は、その国に対して軍事行動を起こす理由として使われてきた。また、イギリスが1905年にインドで（ 7 ）を発表して反英運動の分断を狙ったように、社会のなかに宗教にもとづく反目や対立を引き起こすことは外部からの支配を容易にするものであった。複数の宗教や宗

派が互いの相違を超えていかに共存できるかは、現在でもなお大きな課題である。

設問 1 空欄（1～7）に入るもっとも適切な語句を答えなさい。

設問 2 下線部(a)について。経典に関するつぎの記述（あ～う）は正しいか。それぞれについて、正しければ①を、誤っていれば②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

あ. キリスト教の『新約聖書』は、イエスの言行とともに、ペテロやパウロら使徒の言行なども編纂したものである。

い. イスラーム教の『コーラン（クルアーン）』は、ムハンマドに示された神の言葉とともに、ムハンマドの言行なども編纂したものである。

う. ヒンドゥー教は、特定の教義や経典にもとづく宗教ではない。

設問 3 下線部(b)について。中国では明代末期以降、宣教師が布教活動をおこなったが、布教のあり方をめぐりカトリック教会内で論争が生じた。この論争は何と呼ばれるか。その名称を答えなさい。

設問 4 下線部(c)について。マニ教は起源の異なる 3つの宗教が融合して成立したとされている。その3つとは何か。それらの名称をすべて答えなさい。

設問 5 下線部(d)について。中国で生まれた宗教結社に関するつぎの記述（あ～う）は正しいか。それぞれについて、正しければ①を、誤っていれば②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

あ. 14世紀中期に起きた紅巾の乱の中心となった白蓮教は、仏教系の宗教結社であり、弥勒仏が救世主としてこの世に現れると説いた。

い. 19世紀中期に洪秀全が設立した上帝会（拜上帝会）は、キリスト教系の宗教結社であり、儒教を排斥した。

う. 20世紀初頭に起きた義和団事件の中心となった義和団は、イスラーム教系の宗教結社であり、キリスト教徒を攻撃した。

設問6 下線部(e)について。つぎのうち、地動説にもとづく宇宙観を唱えたために、教会によって異端として処刑されたのは誰か。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① ガリレオ=ガリレイ ② ケプラー ③ コペルニクス
④ ジョルダナーノ=ブルーノ ⑤ ラプラース

設問7 下線部(f)について。17～18世紀のヨーロッパ諸国の宗教政策に関するつぎの記述(あ～う)は正しいか。それぞれについて、正しいければ①を、誤っていたら②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

あ. フランスでは、ルイ14世がナントの勅令(王令)を廃止して、信仰の統一を目指した。

い. プロイセンでは、フリードリヒ2世が宗教寛容令を出して、信教の自由を認めた。

う. オーストリアでは、マリア=テレジアが宗教寛容令を出して、信教の自由を認めた。

設問8 下線部(g)について。この宗派は何と呼ばれているか。その名称を答えなさい。

設問9 下線部(h)について。イタリアが最終的にヴァチカン市国の独立を承認したときのイタリアの首相は誰であったか。その名前を答えなさい。

設問10 下線部(i)について。1960年代からラテンアメリカを中心として、カトリック教会の内部に、貧しく虐げられた民衆を救うために積極的に改革運動をおこなおうとする動きが現れた。これは何と呼ばれるか。その名称を答えなさい。

III アメリカの対外政策には、「孤立主義」と「普遍主義」の伝統がある。つぎの文章(A～C)は、両者の歴史的背景を述べたものである。よく読んで、下記の設問に答えなさい。(34点)

A 1776年7月4日に公布されたアメリカ独立宣言^(a)では、起草者である(1)らは、新しい国家の基盤が天賦の人権と被治者の同意による統治という原則の上に置かれると主張するとともに、これらの理念が本来的に人類普遍の原則であり、「自明の真理」であるとした。翌年、大陸会議は(2)を採択し、13植民地^(b)は連合してアメリカ合衆国の成立をうたった。合衆国は独立したものの13州が独自の憲法を持つ緩い連合体に過ぎず、政府は弱体であった。そこで、1787年には、フィラデルフィアの憲法制定会議で合衆国憲法が制定された。この憲法は、連邦制をとり、権限を連邦政府と各州政府に配分しているが、宣戦布告などを含めた外交権・課税権・常備軍の保有などの権限が連邦政府に認められ、先にあげた(2)より強力な中央政府が作られた。憲法の批准にあたっては、連邦政府の強力な権限を主張する、のちの財務長官(3)を中心とした「連邦派」と、連邦政府の強い権力に反対する「反連邦派」との対立が見られたが、1789年には、(4)を初代大統領とする連邦政府が成立し、妥協がはかられた。

(4)大統領は、その後ヨーロッパを吹き荒れることになるフランス革命戦争において、中立政策をとった。また、退任に際しての告別の辞で「世界のいずれの国とも恒久的な同盟を締結しないことこそが我が国の方針である」とし、アメリカ合衆国がヨーロッパとの政治的結びつきをできるだけ避ける必要があることを訴えた。その後孤立主義と呼ばれることになる、この政策が明確な形で示されたのが、1823年に出された(5)であった。それは、ヨーロッパの問題には関わらない代わりに、アメリカ大陸の問題にヨーロッパ諸国から干渉されたくないという意思表示でもあった。

B アメリカ合衆国は、1803年にフランスから(6)を、1819年にスペインから(7)を購入し、領土を倍増させた。このように領土を購入によって拡大していく手法は、戦争によって領土を獲得するのが一般的であったヨーロッパとは対

照的であり、また、新たに獲得した領土で東部の州と同じ政治的権利を与えたこともヨーロッパとは決定的に異なっていた。その膨張は自由の領域の拡張を意味し、「自由の帝国」を自認するきっかけでもあった。

そして、1840年代になると、「(8)」という言葉が、アメリカ合衆国の西部開拓^(c)を正当化していくことになる。すなわち、低い水準にあるアメリカ大陸の地域に対して、アメリカの自由に裏付けされた文化や制度を与え、その土地を併合することは「神から与えられた使命である」とする考え方であり、45年にはテキサス、46年にはオレゴン^(c)を併合し、さらに(9)戦争に勝利し48年にカリフォルニアを獲得すると、「自由の帝国」としてのアメリカ合衆国の領土は、太平洋岸に達したのである。

C 西部開拓の結果新しい州が加わると、その州を自由州とするか奴隷州とするかで、アメリカ合衆国は北部と南部で激しく対立した。1860年に、奴隷制拡大に反対する共和党の^(d)(10)が大統領に当選すると、南部諸州は連邦から分離し、翌61年にはアメリカ連合国を結成したことから、ここに南北戦争が始まった。

(10)は、西部地域の支持を得るために、一定の条件下で土地を無償供与する(11)法を制定し、1863年には奴隷解放宣言を発表し、内外の世論を味方につけ、65年には北部が勝利した。

南北戦争が終わると一時沈静化していた西部開拓が再び進み、1890年頃には、開拓地と未開拓地との境界線であるフロンティアが消滅した。これ以後、アメリカ資本の対外進出が本格化するところとなり、このことと軌を一にして、対外政策での孤立主義の伝統は見直されることとなった。そして1898年にマッキンリー大統領の下でアメリカ=スペイン戦争に勝利をおさめると、カリブ海・太平洋のスペイン領植民地^(e)を獲得した。この戦争は、専制的抑圧者からキューバを救うという正義感が世論となり、「自由の帝国」としてのアメリカの自己意識を高めることにもなったのである。

以後、アメリカの対外政策は、孤立主義と自由を世界に広めるという普遍主義との間を振り子のように揺れるのである。

設問 1 空欄（1～11）に入るもっとも適切な語句を答えなさい。

設問 2 下線部(a)について、『統治二論』を著し、この宣言に影響を与えたイギリスの啓蒙思想家は誰か。その名前を答えなさい。

設問 3 下線部(b)について。イギリスが最初に作った植民地はどれか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① ヴァージニア
- ② ジョージア
- ③ ペンシルヴェニア
- ④ マサチューセッツ
- ⑤ メリーランド

設問 4 下線部(c)について。アメリカの西部開拓に関するつぎの記述（あ～う）は正しいか。それぞれについて、正しいければ①を、誤っていれば②を、マーク解答用紙にマークしなさい。

あ。西部開拓民出身のジャクソンは大統領に就任すると、農民と奴隷の立場を重視した民主主義的改革を実行した。

い。カリフォルニアで金鉱が発見されると、大量の移民が太平洋岸に流れ込み、西部開拓はますます進展した。

う。ストウ夫人の著した『アンクル=トムの小屋』は、ヨーロッパからの西部開拓移民の苦難を描いたものである。

設問 5 下線部(d)について。こうした対立の背景には、通商・産業構造の違いがあった。その違いについて、50字以内で説明しなさい。

設問 6 下線部(e)について。つぎのうち、アジアでアメリカがスペインから獲得したのはどこか。1つ選んでマーク解答用紙にマークしなさい。

- ① フィリピン ② インドネシア ③ マレーシア
④ ヴェトナム ⑤ タイ

